

みらいだより



園長 日浦 信介

8/30（土）の夏祭り、お越しいただきありがとうございました。これまたしっかり暑かったですね。そんな中でも子どもたちと保護者のみなさまの笑顔がたくさん見ることができ、細かな改善点は多々ありますが、職員と「よかったね」と振り返っています。



保育園/幼稚園/こども園では、七夕・もちつき・節分など 1 年を通して行事がありますが、その取り組みは各園で様々です。一般的には ①季節を感じ自然に親しむ ②日本の伝統・文化を伝える という目的で行われますが、みらいこども園では学年が上になるほど ③子どもが主体となって取り組む ことを大切にしています。山から竹を切り出し七夕飾りに、つい先日は太い竹を割って自分たちで節を取って磨き、そうめん流しをしました。夏祭りではそら・ひかり組合同で「どんなお祭りがしたいか」考えて話し合い、子どもたちは試行錯誤しながら協力して準備を進めてきました。大人にやらされるのではなく自ら考え行動することで、生きる力の根っこが大きく育っていきます。こうい

バキ『おっきい音がした！』った経験が、大人になっても忘れない体験（原風景）になることを願います。

月	日	曜	行 事 予 定
9	13	土	保護者交流会（0 歳児） どんぐり運動遊び お弁当の日
	16	火	身体測定（りす・うさぎ）
	17	水	身体測定（どんぐり・ひかり）
	18	木	身体測定（たけのこ・そら）
	25	木	運動会Ⅱ-Ⅲ（1～5 歳児）
	27	土	お弁当の日
	1～27		個人懇談（0～4 歳児） ※変更の場合あり



『お化け屋敷がしたい！』



『かき氷づくり』



←お化け屋敷で子どもが来ると、
絶妙の変な動きをしていた
“うみぼうず”

【保育にできるのは、その子を一生支えるような原風景をつくること】

汐見：かつては地域に子どもを守ってやる存在がたくさんいて、地域での生活が子どもたちの教育の場でした。でも今は「外行って遊んでおいで」というのができない。だから、自然にやってこれたことを、今は意図的にやらなければいけないわけです。そこにスマホやゲームなども加わってきて。昔に比べて確実に、保育や子育てが難しくなっていると思います。実際、保育現場もその危機感を抱きながら、どうしていけばいいのか悩んでいます。

石井：大きくなって、不登校だとか対人関係でつまづいてネット依存になったりするような場合、小さいころからきちんとした人との付き合い方を知らないことが多いように感じています。逆の言い方をすれば、幼少期に人とけんかしたり人と深く関わり合ったりして、生身の人間としての信頼関係みたいなものがあれば、大きくなってから多少うまくいかないことがあっても、自分で回復する力を持っているんです。それを支えているのはきっと、その子の人間形成の根幹みたいなところにある原風景なのではないかな、と。

『エデュカーレ（第 117 号）』汐見稔幸/石井光太 対談 より